

「成長」

メッセージノート（2023.4.30）

1 ペテロ 2:1-3

2:1 ですからあなたがたは、すべての悪意、すべての偽り、偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、

2:2 生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、霊の乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。

2:3 あなたがたは、主がいつくしみ深い方であることを、確かに味わいました。

1. 心の中の悪いものに気を付ける

- 心の中をチェックすることがみことばを学ぶ前にすすめられています。

1 ペテロ 1:22-25

1:22 あなたがたは真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、きよい心で互いに熱く愛し合いなさい。

1:23 あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく朽ちない種からであり、生きた、いつまでも残る、神のことばによるのです。

1:24 「人はみな草のよう。その栄えはみな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。

1:25 しかし、主のことばは永遠に立つ」

とあるからです。これが、あなたがたに福音として宣べ伝えられたことばです。

- 「互いに熱く愛し合う(1:22)」ことではないもの、「愛さない習慣」ともいえるものが 2:1 で言われています。
- これらの悪いものは心にとっての「雑草」ともいえるもの。雑草は見過ごされがちです。気が付くこと、認められることが成長の一步になります。

2. 霊の乳(聖書)から学ぶ

2:2 生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、霊の乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。

- 成長しないと救われないのだとしたらたいへんでは？

1 ペテロ 1:5、9

1:5 あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりの時に現されるように用意されている救いをいただくのです。

1:9 あなたがたが、信仰の結果であるたましいの救いを得ているからです。

- 1:5 では、最後の最後まで守られ、1:9 では、すでに「たましいの救いを得ている」と言われています。
- まとめると、イエス様を信じることで、すでに救われています。でも成長することも同時に願われています。神様の私たちへの親心ともいえるものでしょう。
- 私たちにはこの二つの言い方が必要なのでは？

- ペテロはみことばによって「新しく生まれ」(1:23)、みことばによって成長する(2:2)という旧約時代からの勧めをここでも繰り返しています。

- 一人で学ぶことも、集まり(スモールグループなど)の中で学ぶことも成長の助けになります。
- み言葉の学びのリソース(クラス 2 で紹介されたものの抜粋)
 - YouVersion(リビングバイブル、口語訳、アライブバイブル(新約))
 - 聴くドラマ聖書(新改訳 2017)

- クロスバイブルスタディー
- 羊群(特に現代訳をQTなどで使っておられる方には参考になる質問があります)
- バイブルプロジェクト(<https://bibleproject.com/Japanese/>)
- この教会の説教シリーズ

3. イエス様のいつくしみ深さを味わう

2:3 あなたがたは、主がいつくしみ深い方であることを、確かに味わいました。

- ペテロ自身が特にイエス様がいつくしみ深い方であること体験しました。

ルカ22:31-34

22:31 シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って、聞き届けられました。

22:32 しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

22:33 シモンはイエスに言った。「主よ。あなたとご一緒なら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」

22:34 しかし、イエスは言われた。「ペテロ、あなたに言うておきます。今日、鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」

ヨハネ 21:9、12-13、17(後半)

21:9 こうして彼らが陸地に上がると、そこには炭火がおこされていて、その上には魚があり、またパンがあるのが見えた。

21:12 イエスは彼らに言われた。「さあ、朝の食事をしなさい。」弟子たちは、主であることを知っていたので、だれも「あなたはどなたですか」とあえて尋ねはしなかった。

21:13 イエスは来てパンを取り、彼らにお与えになった。また、魚も同じようにされた。

21:17 イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

「いままでに起こったすべての出来事をふり返るとき、私たちがたやすく陥りやすい考え方は、感謝できるよいことと、忘れてしまいたい悪いことを区別して考えてしまうことです。……私たちの過去のすべてを、感謝の光のもとに持ち出すのはきわめてむずかしいことです。その中には、負い目を感じていることや恥に思うことが、じつにたくさんありますし、あのことさえなかったら、と思えることもたくさんあります。しかし、『そのすべて』を見据える勇気を持ち、神の視点からそれを見ることができれば、その負い目は『幸いな負い目』となり、恥に思えることも『幸いな恥』となります。なぜなら、それらを通して私たちは神の憐れみをさらに深く認めることができ、神の導きをさらに強く確信することができるからです。」

(太田和功一著「しばし立ち止まり、ふり返る」からヘンリ・ナウエンの抜粋)

- イエス様の十字架とともに、支えあうコミュニティの中でイエス様のいくつしみ深さを体験できるのでは？

まとめ

- 自分のうちに悪意や偽善といったものがあることに気が付いたことがあるでしょうか。
- 霊にいのちを与え、また成長させてくださる霊の乳(聖書)を学ぶ機会があるでしょうか。以前読んだ個所でも新たな発見や、他の人の分かち合いで目が開かれたという体験があるでしょうか。
- 失敗や恥を「幸いな失敗」「幸いな恥」とできたときがあったでしょうか。